

編集室



明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

また、平素より「水産宮崎」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

「水産宮崎」の担当となり早3年が経ち、多くの方々の協力を得て今年も新年号にたどり着くことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、昨年为社会情勢を顧みますと、新型コロナウイルスに対応したワクチンの普及により様々な場面で制限が緩和され、今まで中止が続いていたイベント等も通常開催されるなど、楽しみが戻りつつあります。

また、その一方で、ロシアのウクライナ侵攻の影響による各物資の遅延や欠品により、日々の水道光熱費や日用品の価格高騰による、生活の困窮を免れない事態となっています。我々漁業界においても、セーフティーネットについては、令和2年度第4四半期より7期連続の発動となっており、令和4年度第1四半期は過去最高の補填単価となりました。

一方、本県の漁業生産については、前年度に比べ殆どの漁業種類において魚価は上昇したものの、漁獲数量、金額ともに減少しました。

漁業経営を取り巻く環境については、国際資源であるクロマグロの漁獲枠において、2022年1月から大臣許可船に公的IQ制度が本格導入されました。また、コロナ禍で入国できない状況が続いていた外国人実習生等については、同年3月の入国制限緩和により各JFで受け入れが再開されました。

このような状況の中、JFグループで働く職員として、漁業を守り、漁業を継承していくという観点から、多くの方々へ魚や漁業について関心を持ってもらえるよう情報を発信し続ける必要性を再認識しております。

漁業を取り巻く環境は、依然として漁業収益の減少や後継者不足等厳しい状況ではありますが、この「水産宮崎」が、漁業者の皆様のお事業、生活の改善に繋がるよう、関係者の皆様が情報共有していただくツールとしてご活用いただけるように、本年も引き続き紙面作りに精進して参ります。

結びになりますが、今年1年が皆様にとって、実り多き年になりますようご祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

